

多様化する会員企業のニーズを背景として 期待が高まるマイクロソフトオフィススペシャリスト

福井県商工会連合会

福井県内の会員企業に対して、経営指導を行っている福井県商工会連合会。会員企業から持ち込まれるさまざまな相談のなかには、パソコンの操作に関するものも多く、その対応の質を高めることを目的として、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の本格導入を決めました。2005年度の講習会受講者については全員が一発合格という快挙を成し遂げたいと、同連合会ではMOT (Microsoft® Official Trainer)も視野に入れた新たな計画を立てています。

相談業務の機能強化を目指して

—— 導入のいきさつ

福井県商工会連合会は、福井県内にある38の商工会を統括する組織です。

そもそも「商工会」というのは、主に町村部の事業者が会員となって、お互いの事業発展や地域発展のためにさまざまな活動を行う非営利団体のこと。会員の業種は特に限定されていません。よく似た組織として、主に市部に設置される「商工会議所」がありますが、商工会議所では会員に占める小規模事業者の割合が約8割なのに対して、商工会では9割以上と高め。その分、商工会のほうが、小規模企業・中小企業の会員をより強く意識した活動を展開している点に特徴があります。「商工会連合会」は、基本的には各都道府県別に設置されており、各商工会の運営指導や商工業に関する専門的な相談受付、情報提供、調査研究、共済事業などを行っています。

商工会の会員企業の間でも、最近では業務にパソコンを活用する経営者が増えていることから、商工会・商工会連合会ともにITに関する専門知識を持った職員の拡充が求められるようになりました。福井県商工会連合会の経営支援部経営振興課主査、松原孝典さんは次のように説明します。

「パソコンの普及によって、経営支援を担当する我々のもとにも、パソコン関連の質問が多数持ち込まれるようになりました。寄せられる質問内容は、事業内容に応じて多種多様です。そこで、県内の各商工会でも、ホームページの作成教室やデジカメ教室など、各種のIT講習会を開催してきました。しかし、最近では特に顧客名簿や帳簿、台帳の作成、整理などに関する質問が多く、この部分についてより幅広い知識と高い専門性を持った職員の育成が必要になってきたのです」

そんな状況を背景とし、福井県商工会連合会が目指したのが、仕事の場面での定番ソフトとなっているExcel®とWordを体系的に学べるマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)。そして、2005年6月に福井県商工会連合会でマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の講習会の実施が決まった際に、講師として白羽の矢が立ったのが、福井県内の商工会の会員でもあったマイクロソフト認定校・MCAトレーニングセンターの『キャリアスクール ティム』でした。

講習会の開催にあたっては、上記スクールと担当職員の間で実施要綱の詳細を打ち合わせ、商工会や連合会の内部で受講希望者を募ったところ、ちょうど福利厚生制度の一環として補助制度ができたこともあって、女性職員を中心に20代から40代までの職員20名の手が挙がりました。

学習を楽しみつつ、全員合格を実現

—— 取り組みの実際

実際の講習会では、WordとExcelのスペシャリスト レベル相当の内容を実施。10名ずつのグループに分かれ、2005年の9月から12月にかけて開催されました。参加者には、1日6時間の講義を2日ずつ受講してもらい、模擬試験は個別に実施しました。その結果、2006年1月の試験では受講者全員が一発合格。Wordで17名、Excelで14名(いずれもバージョンはOffice 2003)の資格保有者が誕生しました。この快挙の背景を、松原さんはこう説明します。

「私自身も講習会に参加しましたが、講習会自体を楽しんでいる人が多かったようですね。受講した職員は、日頃からパソコンの操作に親しんでおり、受講者20名のうち14名は、すで

ることで得られる資格で、MOT取得者は、一般ユーザー向けにインストラクションを行うための専門知識を持つ人材として、各方面で高く評価されています。

福井県商工会連合会では、「合併の終了後、13の商工会に一人ずつ資格保有者を配置すること」を目標に掲げ、多忙な合併作業の合間を縫って、一歩ずつ着実に準備を進めています。

市町村合併に伴う合併をひとつの契機として、会員企業に対するいっそうのサービス充実を目指す、福井県商工会連合会。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS試験)を活用したその取り組みは、時代のニーズに即した試みとして、注目すべきモデルケースと言えるでしょう。

※MOT事務局が規定する、ある一定以上の正答率での合格

に『初級シスアドミニストレータ』の資格を持っていました。しかし、いざマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の講習を受けてみると、基本的な操作の3分の1くらいしか使いこなしていなかったことに気づかされたんです。そこで、参加者がお互いの知識を交換したり、模擬試験問題の情報を交換したり、協力しあって学習を進めました。それまであまり話したことがない職員同士が、講習会を通じてコミュニケーションを取れた点も、非常に良かったと思います」

現時点では、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)の取得者による講習会などは実施していないものの、取得者は、学習で得た新たなスキルを活かして、業務における効率アップを実現していると言います。

組織再編を見据え、MOTにも挑戦

——さらなるスキルアップへ

現在、日本全国で市町村合併に伴う商工会の合併が進んでいます。福井県内に38ある商工会も、合併により、1年以内に13まで減少します。この合併後の商工会のビジョンとして、福井県商工会連合会が第一に掲げているのが、「経営支援機能の強化」。パソコン関連の相談、指導業務強化がその重要な柱のひとつとなっていることは、言うまでもありません。

そこで福井県商工会連合会では、2006年の6月をめどに、今度はWordとExcelのエキスパート レベルとPowerPoint®の講習会実施を計画しています。

「会員企業の多様なニーズに応えるには、職員の側も、常にスキルを高めていく努力が不可欠。そこで上記の3科目の取得と並行して、MOT Essentialsも受験してもらい、パソコンの知識とプレゼンテーションスキルを併せ持った、MOT取得者を徐々に増やしていきたいと考えています」(松原さん)

MOT(Microsoft Official Trainer)は、WordやExcelなどをはじめとするMicrosoft Office各製品の機能についてトレーナーとして必要な知識を習得しているかを問う試験(MOT Essentials)と、実技試験(マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験))に合格※した後、トレーナーの基礎知識やマナーを習得するセミナー(Train the Trainer for MOT)を修了す



2005年に実施された、福井県商工会連合会での講習会の様子

福井県商工会連合会 <http://www.shokokai-fukui.or.jp/>

所在地 福井県福井市宝永4-9-14

職員数 約190人

現在、福井県内に38ある商工会を統括する総合経済団体。主な業務内容は、会員企業への経営指導、各商工会の運営指導や商工会会員への融資、相談受付、共済や保険制度の提供など。最近では、ISO取得支援や、経営革新などにも重点を置いている。2007年に行われる県内商工会の大規模な合併に向け、現在、急ピッチで準備が進められている。

取材ご協力



経営支援部経営振興課
主査
松原 孝典 さん